

序 論

●序論（素案）

第1章 計画策定に当たって

1 策定の趣旨

総合計画は、宇都宮市の都市経営の最上位の方針となるものであり、市民・事業者・行政などの構成員が一体となってまちづくりに取り組むため、その基本的な考え方や目指す将来の姿を示し、これからのまちづくりの指針となる「第6次宇都宮市総合計画」を策定しました。

2 計画の構成

第6次宇都宮市総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」で構成します。

なお、本書では、「基本構想」及び「基本計画」を掲載し、「実施計画」については、別途作成することとします。

(1) 基本構想

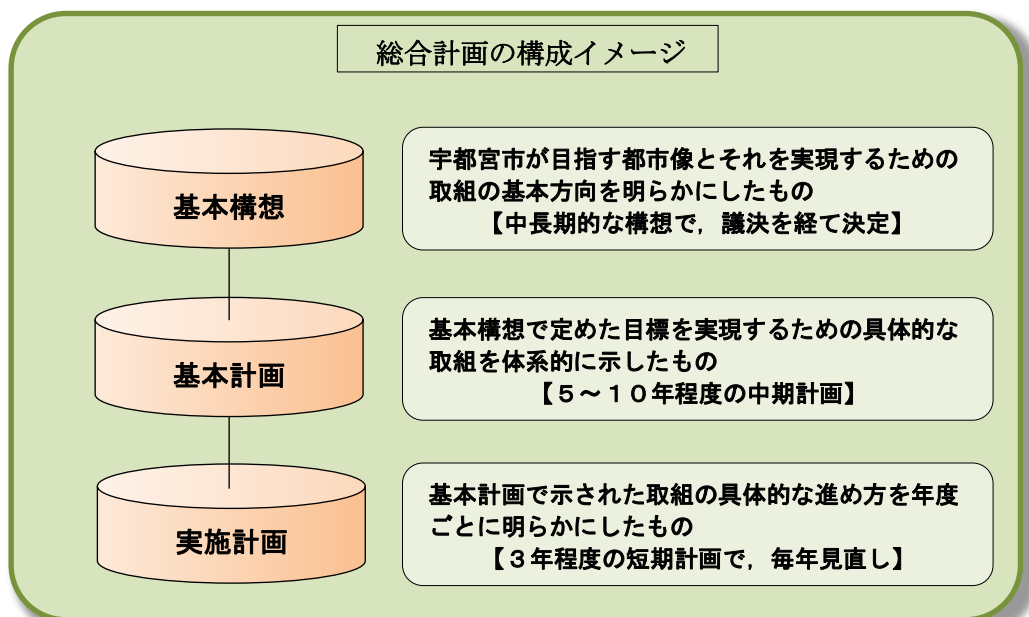
「基本構想」は、総合的で計画的な行政運営を図るため、目指すべき将来のうつのみや像や、まちづくりの基本方向などを示すもので、“宇都宮市におけるまちづくりのビジョン（未来像）”と言えるものです。

(2) 基本計画

「基本計画」は、基本構想で定めたまちづくりの基本方向に即して、将来の「うつのみや像」を実現するために必要な基本的取組を示すもので、“宇都宮市におけるまちづくりのプラン（手段・方策書）”と言えるものです。

(3) 実施計画

「実施計画」は、基本計画に掲げた取組の具体的な進め方を年度ごとに示すもので、“宇都宮市におけるまちづくりのプログラム（実行予定表）”と言えるものです。



3 目標年次と計画期間

(1) 基本構想

目標年次：2050（平成62）年を目標年次として，まちづくりの基本方向を定めます。

(2) 基本計画

計画期間：前期5年，後期5年の計10年（2018（平成30）年度から2027（平成39）年度）とします。社会経済状況の変化等を踏まえ，必要に応じて見直しを行います。

(3) 実施計画

計画期間：3年とします。なお，社会経済の状況や事業の進捗状況，財政状況などを勘案しながら，毎年見直しを行います。

第2章 宇都宮市の概要

本市の地勢，市域の変遷，本市の特性等を記載予定

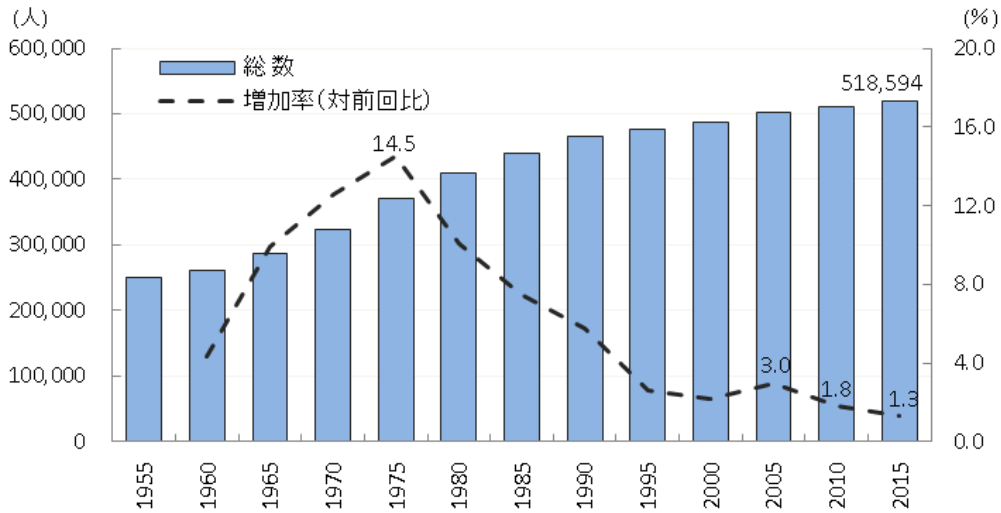
第3章 宇都宮市の現状や時代潮流の変化と展望

(1) 少子化, 超高齢化の進行, 人口減少局面への突入

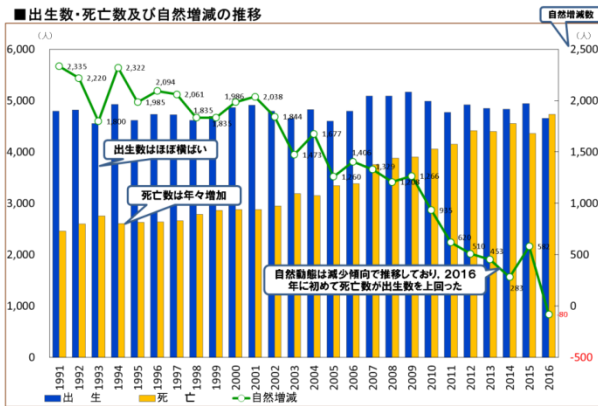
我が国の総人口は, 出生数の長期にわたる低下傾向や死亡者数の増加等を背景に, 本格的な人口減少局面に入っています。

宇都宮市の総人口は, 過去50年間増加を続けていますが, 将来人口推計では, 2000(平成10)年の約50万人をピークに減少に転じると見込まれています。

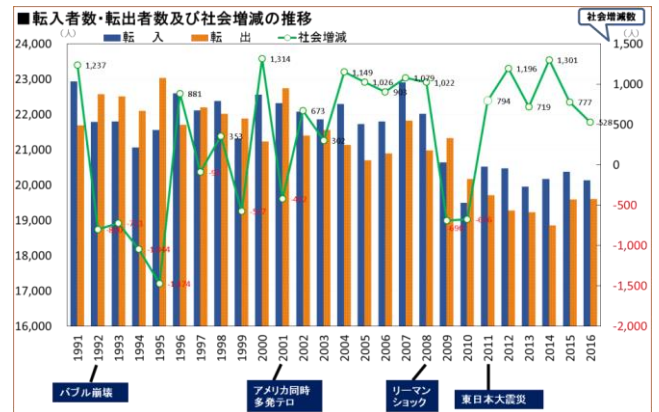
宇都宮市の総人口と人口増減率の推移



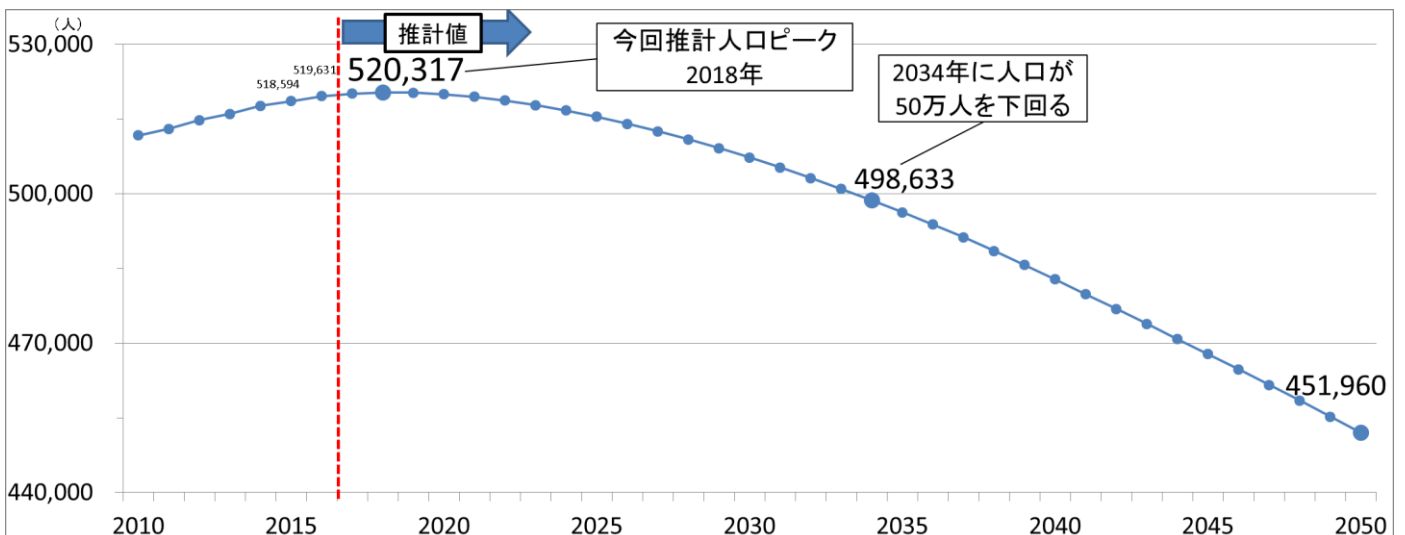
出生数・死亡数及び自然増減の推移



転入者数・転出者数及び社会増減の推移

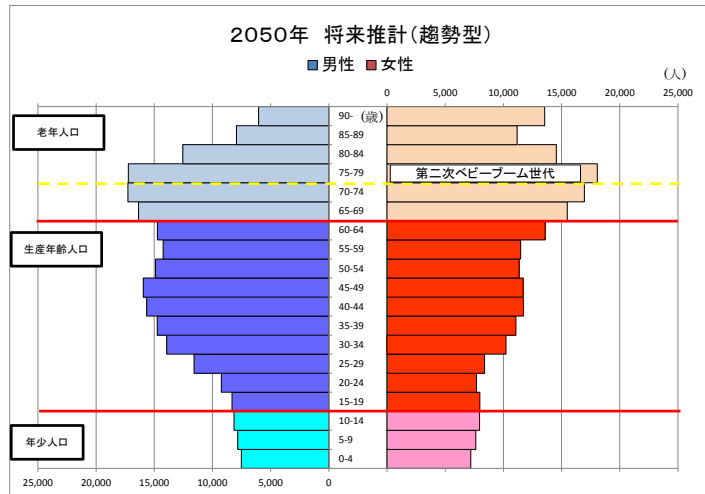
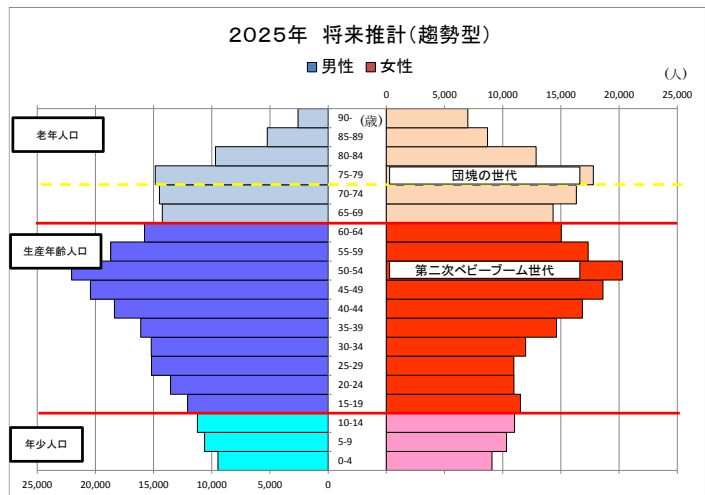
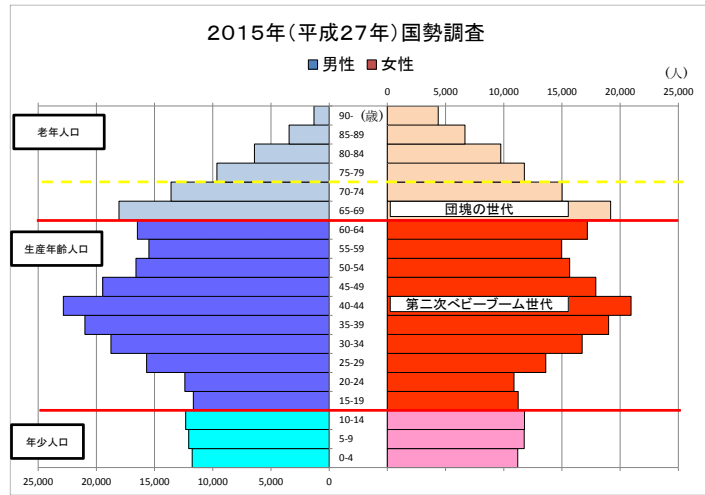


宇都宮市の将来人口推計



宇都宮市の年齢別人口構成の推移を見ると、65歳以上の老年人口が増加するのに対し、0～14歳の年少人口、15～64歳の生産年齢人口は減少していきと推計されます。

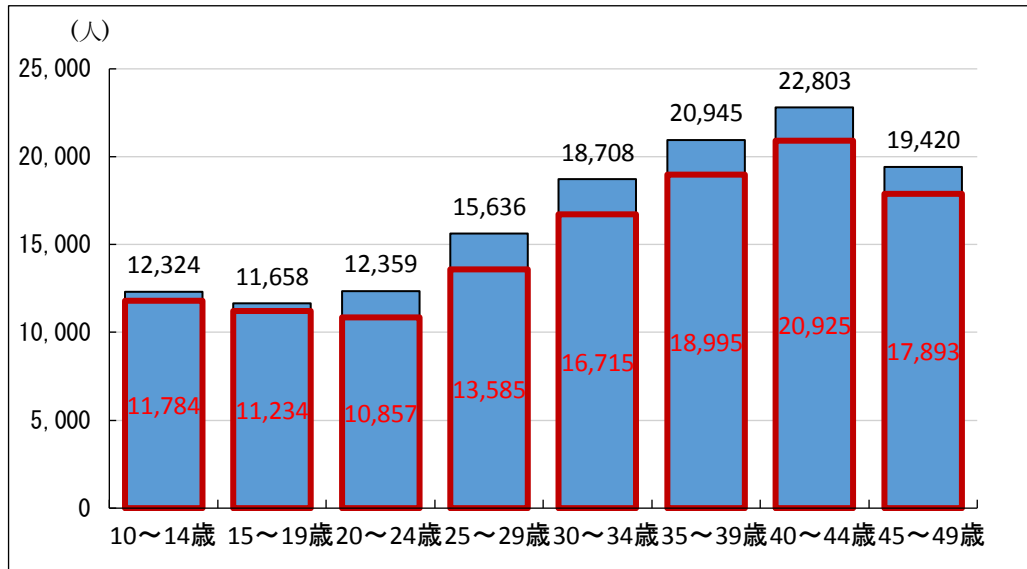
宇都宮市の年齢別（5歳階級）人口の将来推計



出典:「宇都宮市人口ビジョン」

宇都宮市の男女別人口は、総人口で見ると女性の人数が男性をやや上回っていますが、年齢別人口を比較すると、20～49歳では、男性の人数が女性よりも約10,000人（約1.1倍）多くなっています。

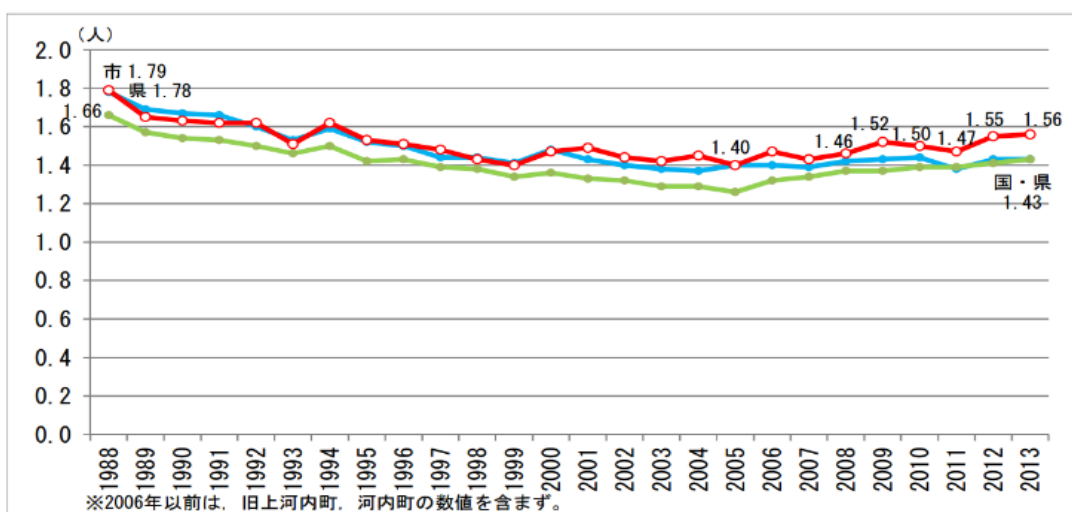
宇都宮市の年齢5歳階級別の男女比較



出典:国勢調査

合計特殊出生率の推移を見ると、長期にわたり低下傾向にありましたが、2000（平成12）年～2005（平成17）年頃にかけて底打ちし、近年は上昇傾向にあります。また、全国、県よりも高い水準で推移しています。

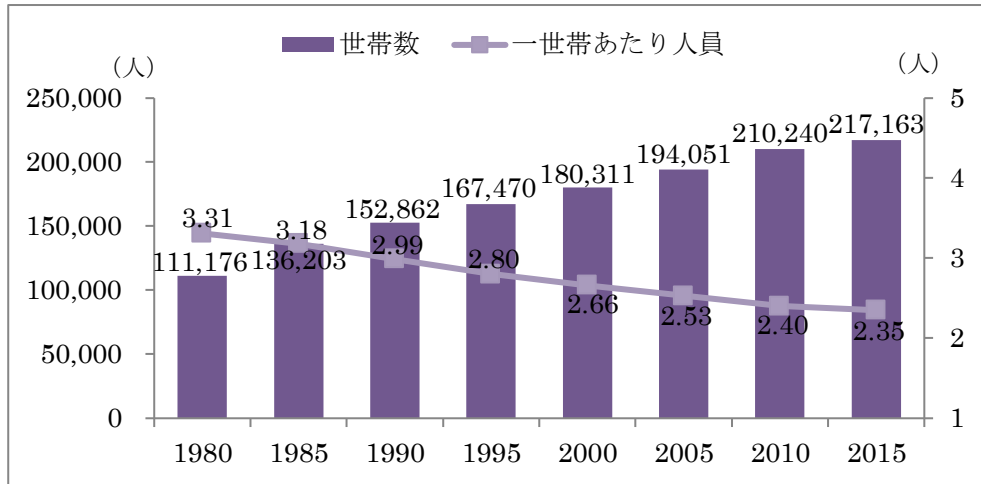
宇都宮市の合計特殊出生率の推移



出典:「宇都宮市人口ビジョン」

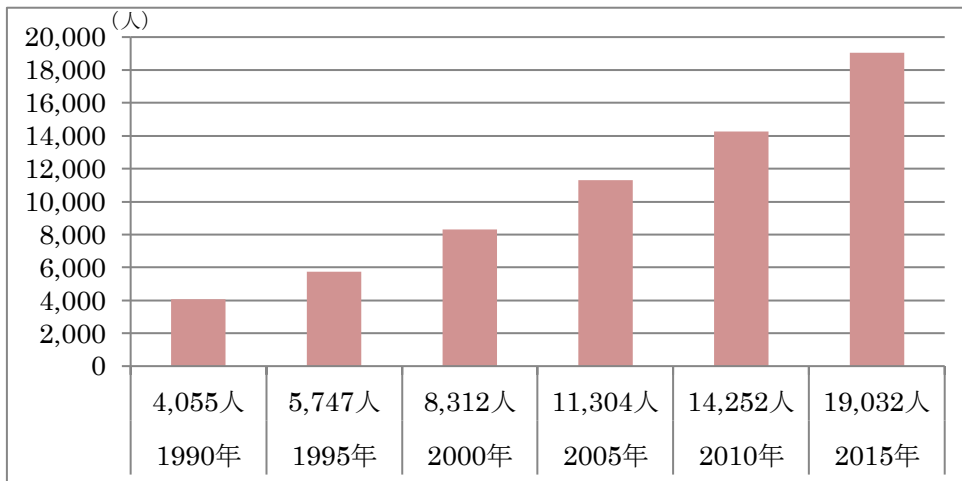
世帯数はこれまで増加を続ける一方、一世帯あたりの人数は減少傾向にあり、特に、近年は65歳以上の単身世帯が大きく増加しています。

宇都宮市の世帯数と世帯あたり人員の推移



出典:国勢調査

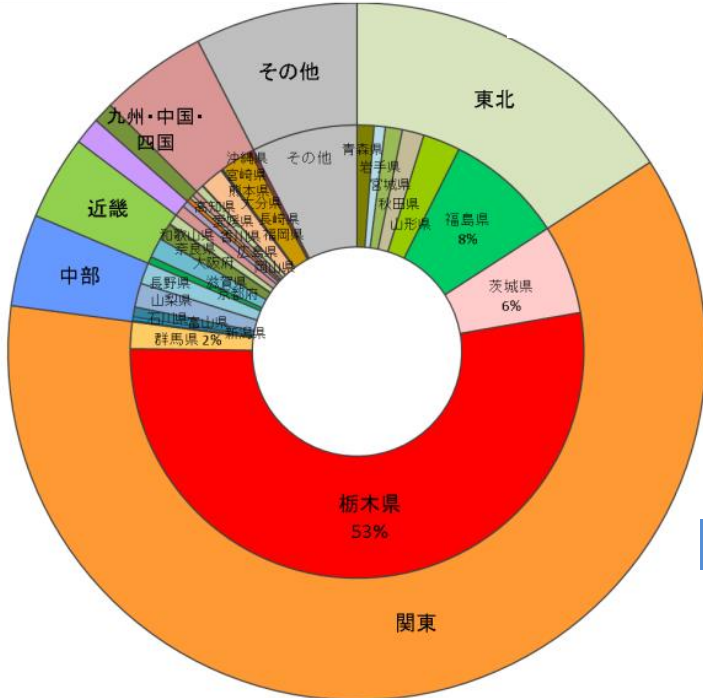
宇都宮市の65歳以上の単身高齢者数の推移



出典:国勢調査

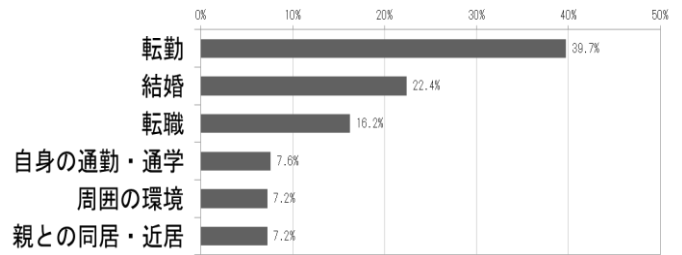
転入・転出の動向を見ると、栃木県内の市町間から宇都宮市への転入が転出を大きく上回っていますが、県外では、特に本市から東京圏（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）への転出超過が大きくなっています。

宇都宮市へ転入超過となっている都道府県の内訳

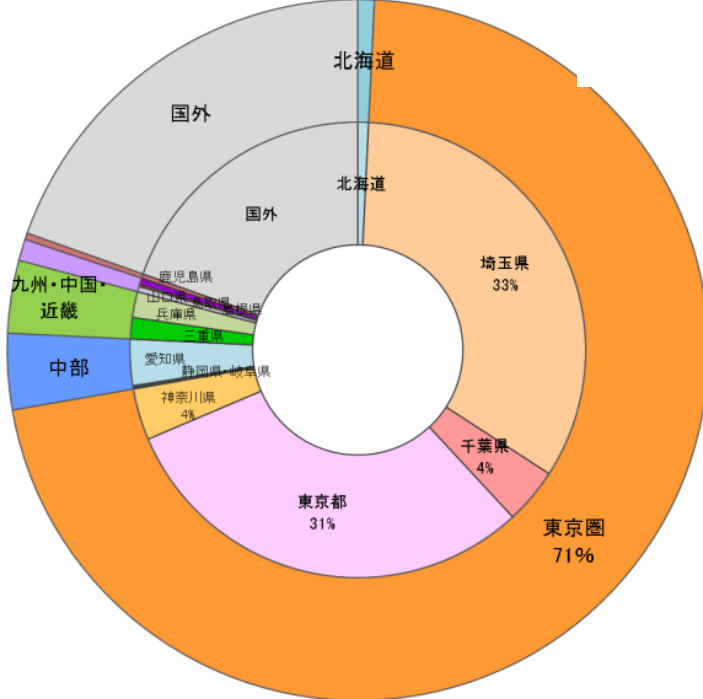


出典:「宇都宮市人口ビジョン」

宇都宮市へ転入する主な理由

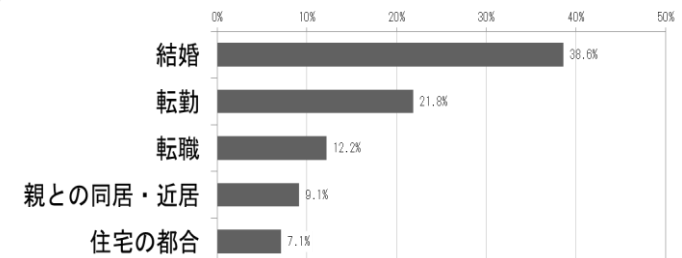


宇都宮市から転出超過となっている都道府県の内訳



出典:「宇都宮市人口ビジョン」

宇都宮市から転出する主な理由

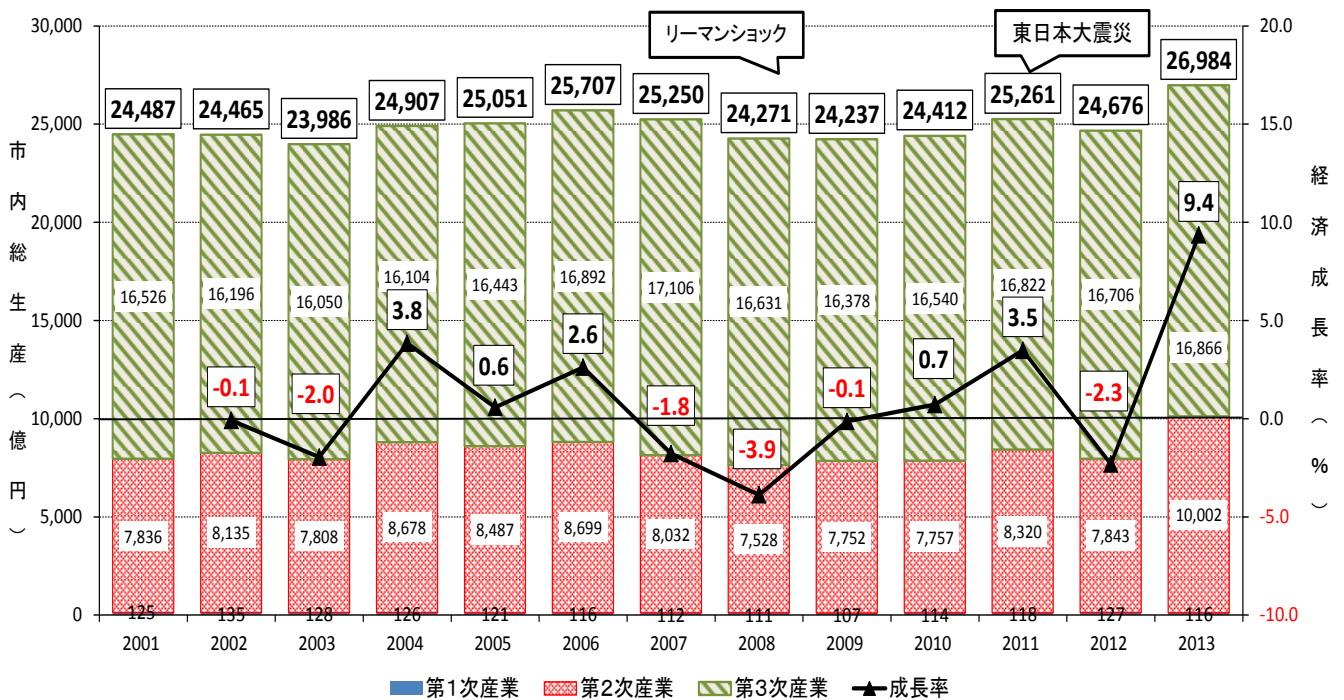


今後、出生率が回復しても、数十年間は総人口の減少が避けられない中で、高齢者が急激に増加することにより、医療・介護・福祉需要や社会保障関係経費の増加、地域コミュニティの弱体化等を招くことが懸念され、また、年少人口と生産年齢人口の減少により、労働力をはじめ様々な分野における担い手の不足が生じ、地域経済の縮小や生活利便性の低下、それらの影響による若い世代の東京圏への転出超過の拡大など、地域の活力低下につながるものが懸念されます。

(2) 地域経済の状況

市内総生産はリーマンショックや東日本大震災などの影響により、増減を繰り返してきていますが、2013（平成25）年に大きく増加しました。2013年の第2次産業と第3次産業の割合は、およそ4：6となっています。

市内総生産と経済成長率の推移



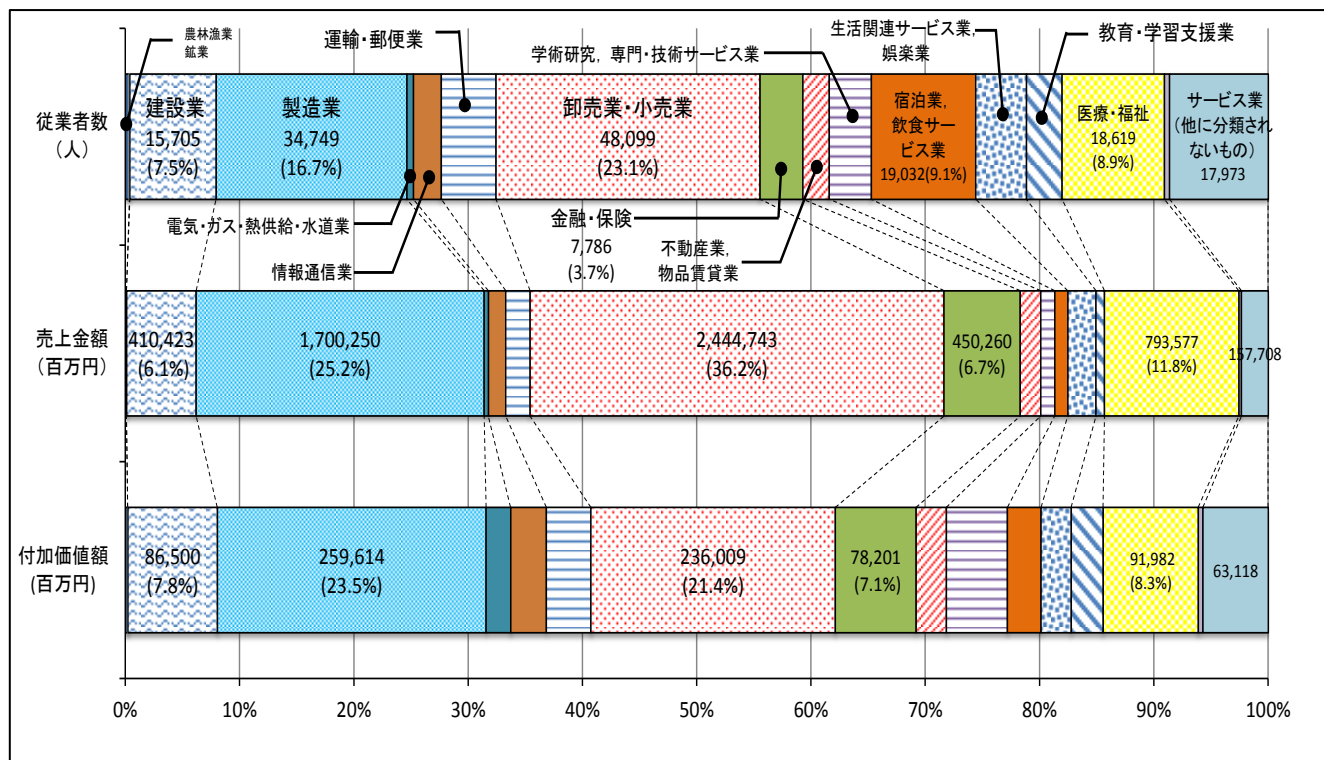
出典：市町村民経済計算（栃木県）

宇都宮市の産業別構成比を見ると、従業者数で構成比率が高い産業は、卸売業・小売業（23.1%）、続いて製造業（16.7%）、宿泊業・飲食サービス業（9.1%）となっています。

売上金額では、卸売業・小売業、製造業の比率が高く、続いて医療・福祉（11.8%）となっています。

付加価値額で構成比率が高い産業は、製造業（23.5%）、卸売業・小売業（21.4%）、医療・福祉（8.3%）の順になっており、製造業は、卸売業・小売業と比較して少ない従業員数でより多くの付加価値額を生み出していると言えます。

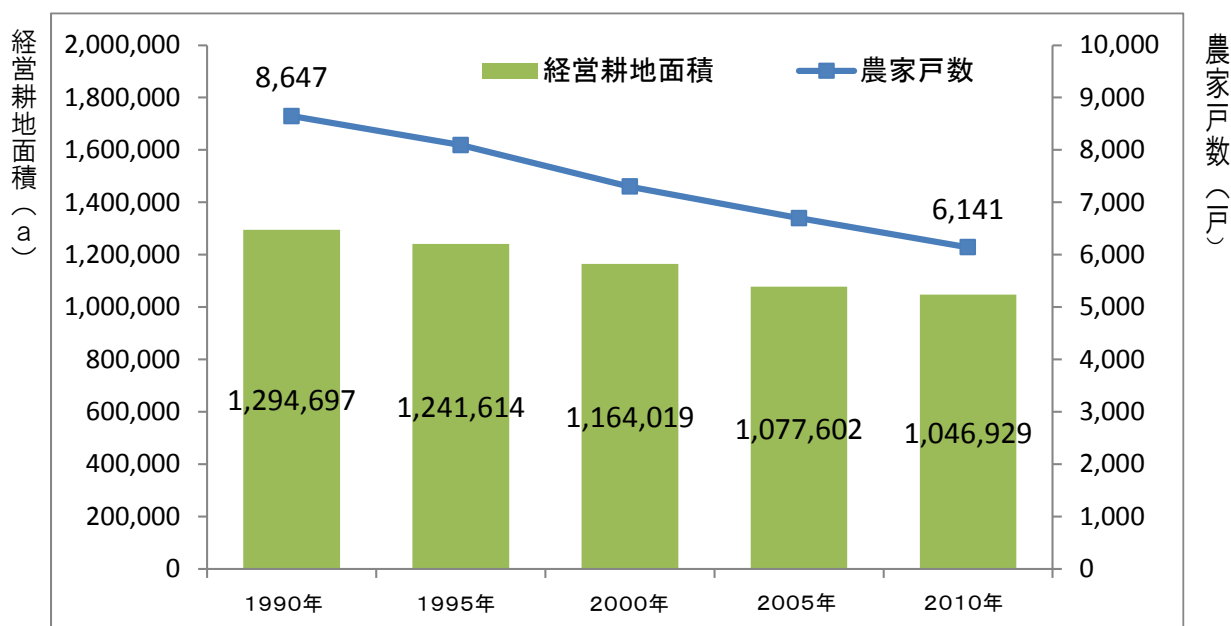
宇都宮市の産業別構成比



出典:「平成24年経済センサス-活動調査結果」(総務省統計局)

宇都宮市の農地面積と農家戸数の推移を見ると、農地面積は年々減少傾向にあり、この20年間で1割減少し、また、農家戸数は1990(平成2)年の8,647戸から2010(平成22)年には6,141戸と、約3割減少しています。

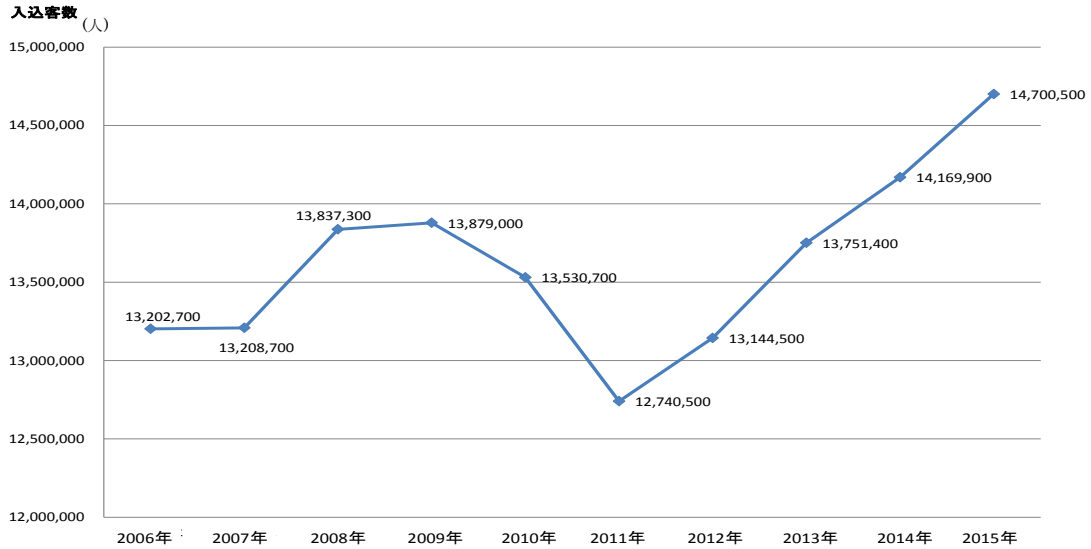
宇都宮市の農地面積(経営耕地面積)と農家戸数の推移



出典:宇都宮市統計データバンク

宇都宮市の観光客入込客数の推移を見ると、2011（平成23）年に東日本大震災の影響で大きく落ち込みましたが、その後は増加を続けています。宿泊者数についても同様に、近年は増加傾向にあります。

宇都宮市の観光客入込客数の推移



出典:宇都宮市観光動態調査

宇都宮市の宿泊者数・外国人宿泊者数の推移



出典:宇都宮市観光動態調査

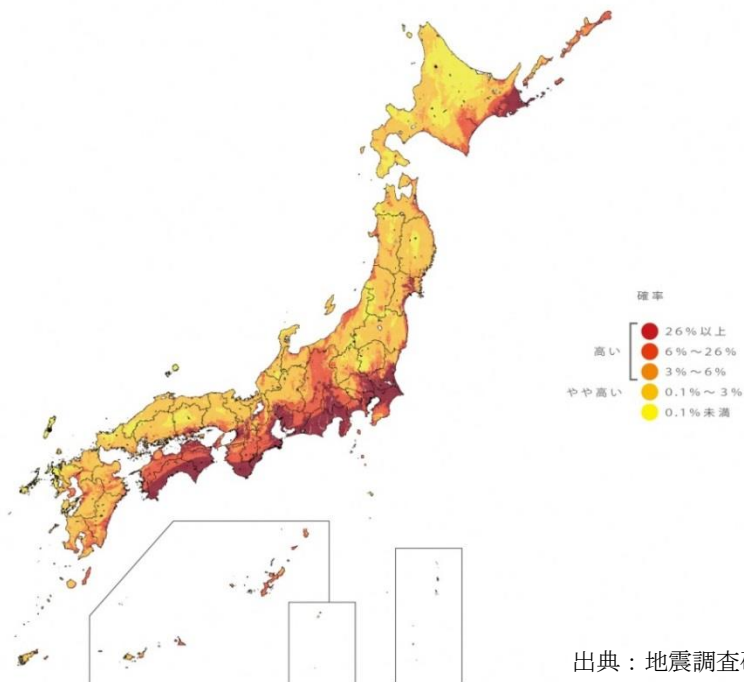
今後は、人口減少・少子高齢化の進行で労働力の不足が見込まれる中、市内の産業においても、農業やサービス業を中心として人材不足が顕在化していくことが懸念されます。また、観光産業については、全国的な外国人観光客の増加傾向などから、本市を訪れる観光客についても、今後、増加していくことが想定されます。

(3) 安全・安心への意識の高まり

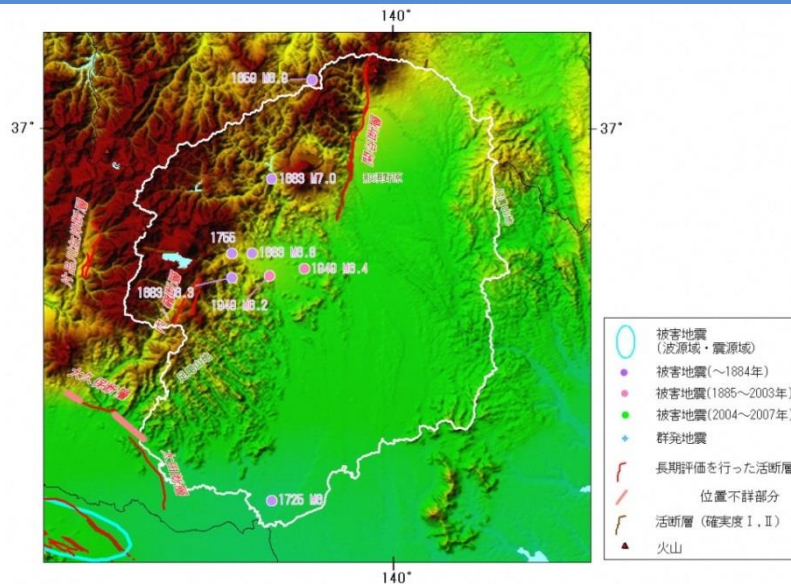
2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災は本市にも甚大な被害をもたらしました。また、近年、局地的な豪雨など、自然災害が頻発しています。

このような中、国においては、今後30年間に約70%の確率で発生するとされている「東海・東南海・南海地震」や、首都直下地震による大きな被害が生じることが想定される中、国土強靱化に向けた取組を推進しています。

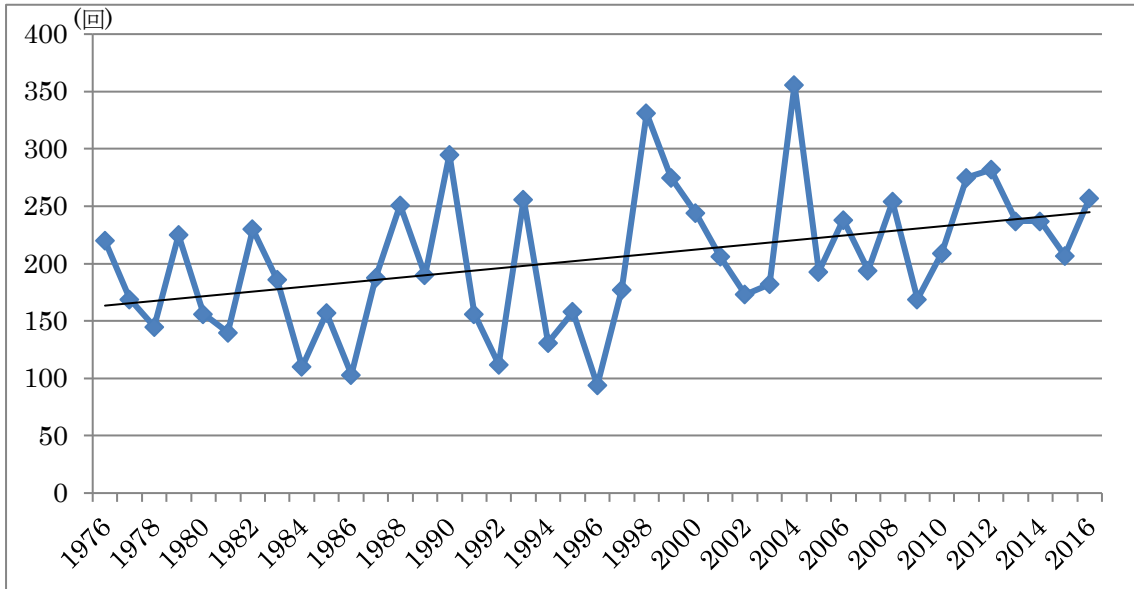
今後30年間の震度6弱以上の地震の発生確率



栃木県とその周辺の主な被害地震



1時間降水量50mm以上の短時間強雨の全国1,000地点における年間発生回数



出典:気象庁

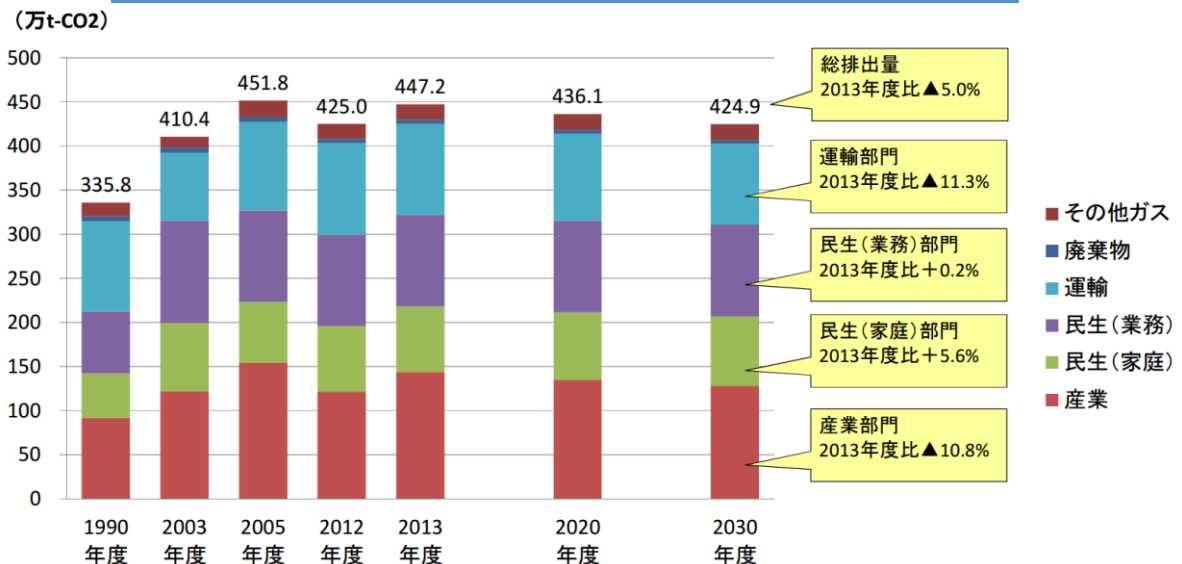
近年頻発する自然災害や食に関する事件などを背景として、市民の安全・安心意識が高まっており、暮らしの安全・安心を確保する取組についても今後、重要性が増していくことが想定されます。

また、高齢者の単身世帯が増加していくことが見込まれ、地域コミュニティにおける防災や防犯力の向上など、支え合いの必要性が一層高まっていくことが想定されます。

(4) 環境・エネルギーの意識の高まり

宇都宮市域における温室効果ガス排出量は、2005（平成17）年をピークに減少傾向にあります。1990（平成2）年度と2012（平成24）年度を比較すると26.6%の増加となっています。

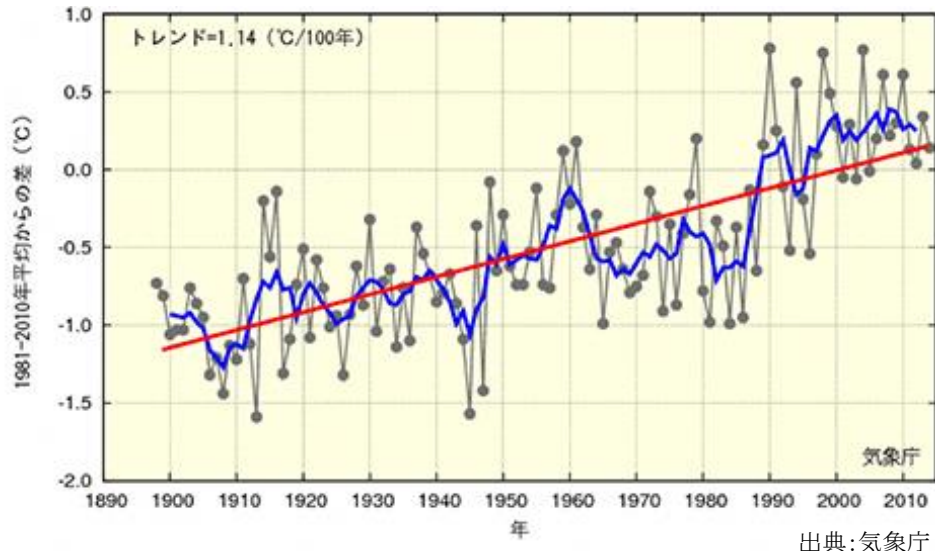
市内の温室効果ガス排出量の推移（排出係数変動）と見通し



出典:宇都宮市地球温暖化対策実行計画区域施策編

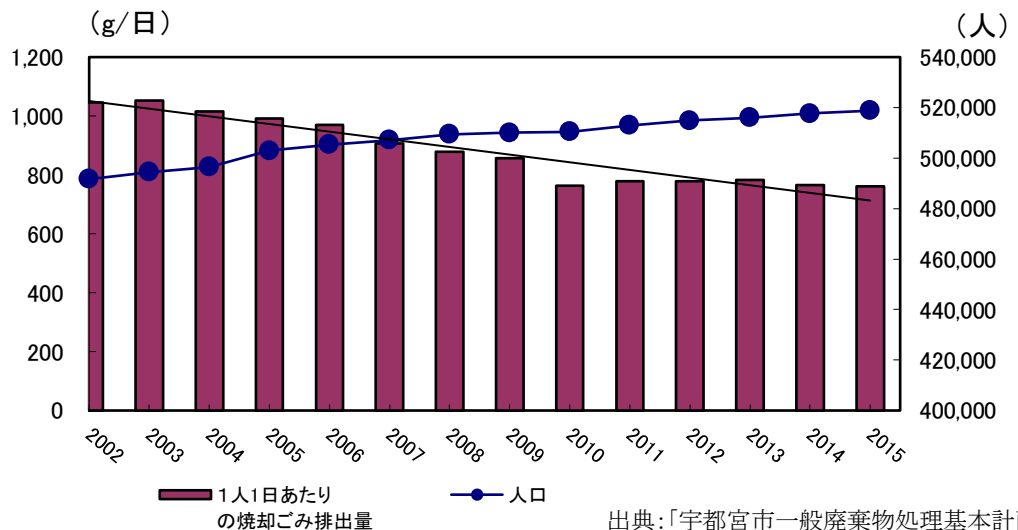
全国の平均気温の動きを見ると、100年間で約1度上昇しています。地球温暖化について、国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の第5次評価報告書では、「疑う余地が無く」、気候変動を抑制するためには、「温室効果ガスの排出を大幅かつ持続的に削減する必要がある」としています。

全国平均気温の偏差



宇都宮市の焼却ごみ排出量の推移を見ると、2003（平成15）年をピークに減少に転じ、さらに、プラスチック製容器包装の分別開始に伴い、2010（平成22）年に大きく減少しましたが、近年は横ばい傾向にあります。

宇都宮市の焼却ごみ排出量の推移

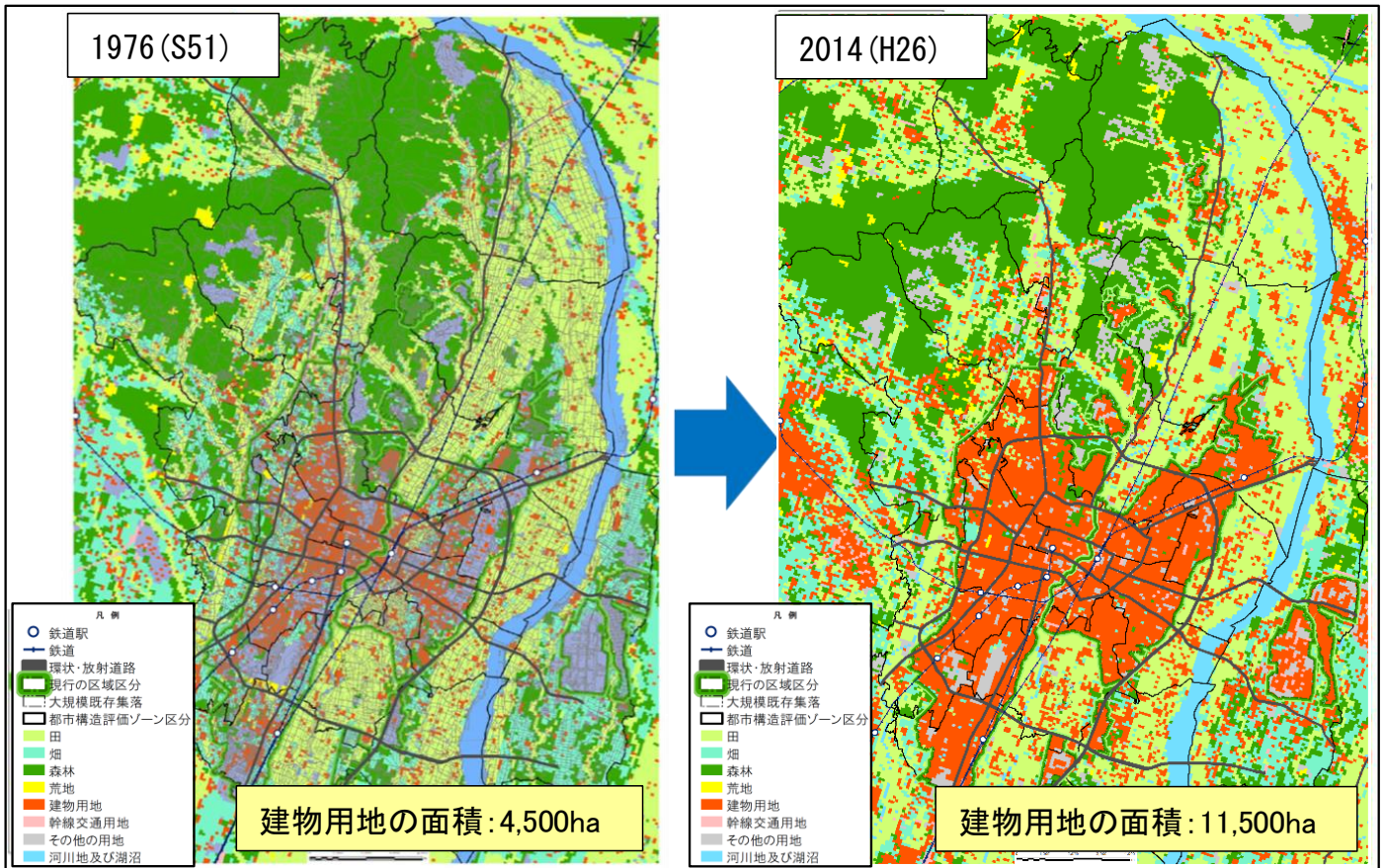


国の第4次環境基本計画における目指すべき持続可能な社会の姿として、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会、社会の基盤として安全が確保される社会が掲げられており、本市においても、環境負荷の低減と、自然環境を次代に引き継いでいくことの重要性が一層高まっています。

(5) 土地利用と交通の変化

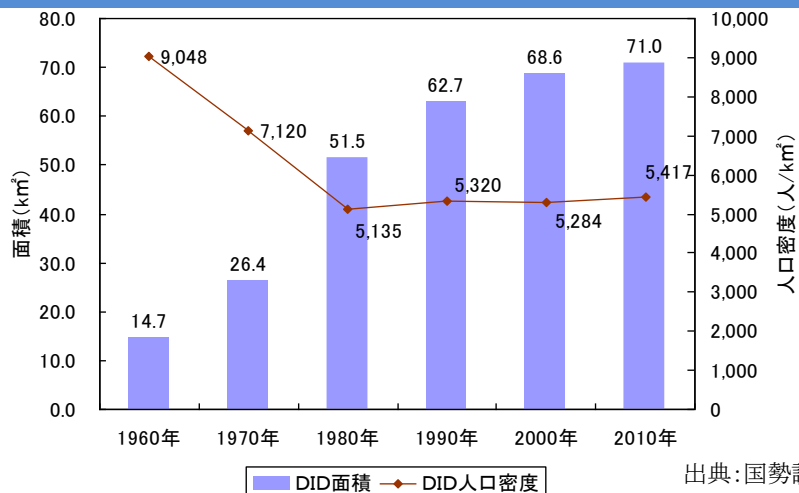
宇都宮市の土地利用の状況を見ると、人口増加やモータリゼーションの進展に伴い、市街地（建物用地）は1976（昭和51）年から2014（平成26）年の約40年間で4,500haから11,500haへと約2.5倍に拡大し、都市機能が郊外へ分散して立地している一方で、農地や緑地、森林は約6,000ha減少しています。

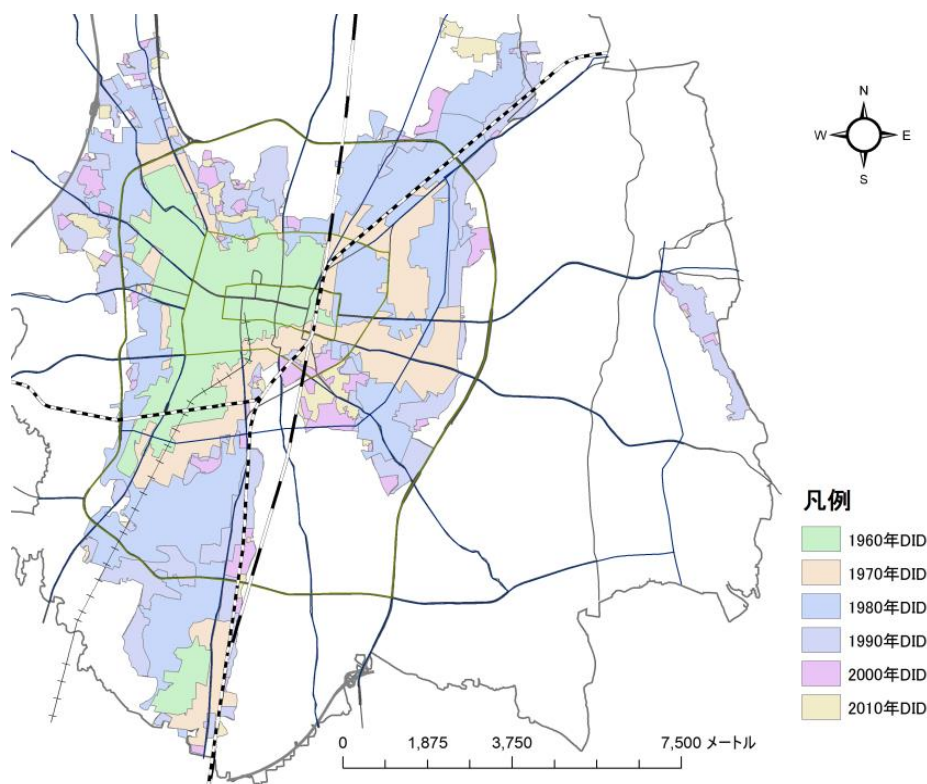
宇都宮市の建物用地と農地・緑地分布の推移



宇都宮市の市街地の状況を見ると、人口の増加と比例して人口集中地区（DID）が拡大し、同時に中心部と郊外部における密度のメリハリが少なくなってきました。

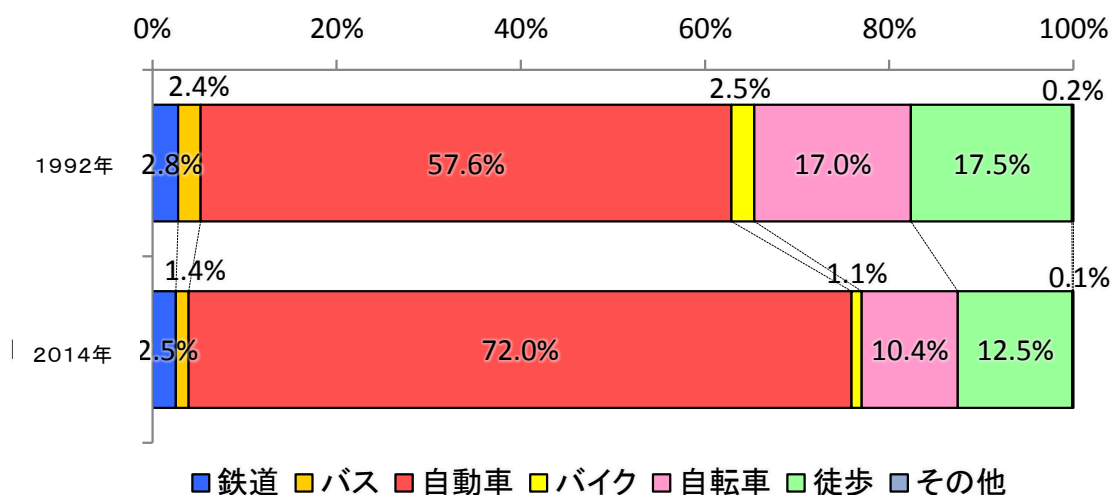
宇都宮市の人口集中地区（DID）の推移





宇都宮市の交通手段分担率を見ると、1992（平成4）年から2014（平成26）年にかけて、自動車の割合が約14ポイントと他の交通手段に比べて大きく増加している一方で、自転車と徒歩の分担率は大きく減少しており、自動車の依存が強くなっています。

宇都宮市の交通手段分担率の推移



本市では、これまで人口増加を背景に市街地が拡大してきましたが、今後、人口減少に転じることで、中心市街地をはじめとした市内各地域の空洞化による利便性の低下が懸念されます。また、超高齢化が進行し、自動車の運転に不安を抱える高齢者の増加が見込まれる中で、公共交通への転換が進まない場合、移動の確保が困難になる市民が増加することが懸念されます。